

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立三瀬小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和5年4月18日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学、英語)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

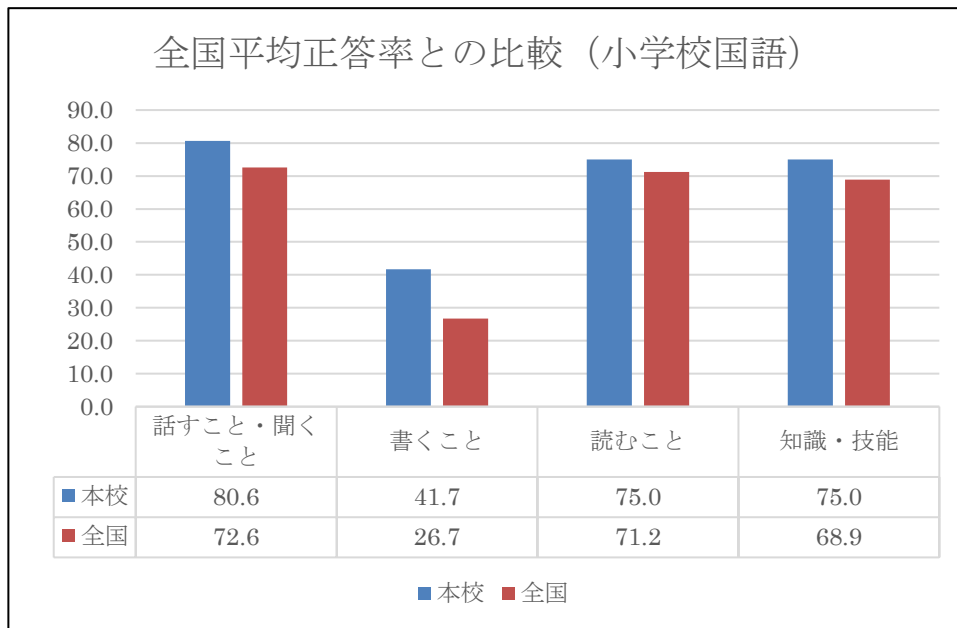
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例)国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、英語(中学校)に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の側面」であることをご理解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

4領域全てにおいて、全国平均を3.8～15ポイント上回っています。無回答率はほぼ0で、児童が問題に対して最後まで粘り強く取り組んでいたことが分かります。

(2) 成果と課題

今回の調査で「書くこと」が全国平均より15ポイント上回っていました。本校では、「主体的・協働的な学びを進める教育活動」の一環として、自分の学びを振り返り、文章で表す学習活動を取り入れています。日頃から文章を書くことを意識的に行っていることの成果が表れていると考えられます。しかし、全国を上回っているとはいえ、「書くこと」の正答率は半分に到達しておらず、他の観点と比べると低いです。与えられた条件に合うような文章を書いたり、複数の資料からそれぞれの内容を取り上げて一つの文章にまとめたり等、多様な文章を書くことに慣れさせる必要があると考えます。国語以外の教科においても今後、指導していきたいと考えています。

(3) 学力向上のための取り組み

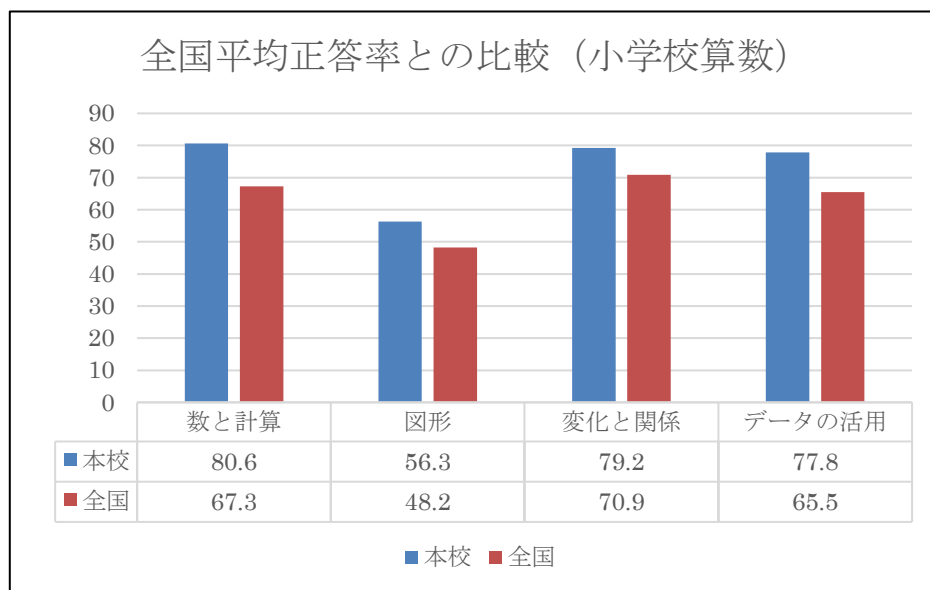
【学校では】

- 授業では、子どもが主体的・協働的に学べるように、授業の在り方を工夫することで、子ども同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。学習の振り返りを書く際に、キーワードを使ったり、2段落構成で書いたりする等の条件を与え、多様な文章を書く機会を増やします。
- スキルタイムでは、「話す・聞くスキル」「全漢字学習」を行い言語力の向上を目指しています。
- 地域のボランティアによる読み語り、毎朝の読書タイム、図書館祭りなどを行い、本に親しむ児童の育成を目指しています。また、学年相応の選書や目標冊数の設定等の指導を通して、読書の充実を図っていきます。

【ご家庭では】

- 音読はとても大切です。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。分からない言葉があれば、辞書を使って調べる等自主学習にも積極的に取り組むとよいと思います。
- 読解力は全ての教科において重要です。読解力を付けるためには、やはり読書は重要です。学年の発達段階にあった本を読むこと、特に高学年では文字の多い本を読むこと、様々なジャンルの本を読むことで、語彙力を高め、知識の幅を広げることができます。公民館内の図書館に定期的に行くことも、子供の読書習慣をつける上で有効であると考えています。

2 算数



(1) 結果

全ての領域において、全国平均を8～13ポイント上回っています。

また、無解答率を見ると、記述式では無解答がみられますが、全国平均より低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「数と計算」の領域で、全国平均を13.3ポイント上回っていました。四則計算の問題、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉で記述する問題において全国平均を上回っています。「基礎・基本」の定着を目指し、少人数を生かしたきめ細やかな指導や、スキルタイムでの取組みの成果が表れていると考えられます。しかし、「図形」の領域においては課題も見られました。切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときの角度を求める問題や、高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題においては、正答率が低く、30%を下回っていました。

図形の学習においては、具体物に触れる、作図等体験をする機会を確保することや、図形の性質を繰り返し問うことで、あいまいな理解を確かなものにするのが重要であると捉え、今後、指導していきたいと思えます。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させるようにします。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- 授業中の様子、ノート、宿題の問題のやり直し等を通して、個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- 主に低学年における計算カードを用いた計算練習はとても大切です。たし算、引き算、九九は問題を見ただけで、すぐに答えが言えるレベルにまで達していると、高学年で、問題がより複雑で難しくなっても、つまづきが少なくスムーズに解くことができます。
- 算数を好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし分けでわり算」「料理で重さや比」「買い物で暗算」「ケーキやピザで分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身のまわりには算数の考えが使えるものがたくさんあります。

3 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	100%	83.7%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	16.7%	38.1%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	50.0%	55.1%
自分にはよいところがあると思いますか。	50.0%	42.6%
将来の夢や目標を持っていますか。	25.0%	60.8%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	75.0%	75.3%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	83.3%	82.6%

朝食は100%で、全員が毎日食べることができています。起床・就寝については全国平均を下回っています。寝る時間が日によって違っていると、睡眠時間に大きく関わってきます。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことはとても重要です。家庭と学校で協力して、習慣化していきましょう。自己肯定感、規範意識は全国より高い傾向にあります。将来の夢や目標を持っていると回答した割合は低くなっています。将来について考える機会を意識的に設けていきたいと思っています。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	25.0%	28.7%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	8.3%	11.8%
「2時間以上、3時間より少ない」	8.3%	13.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	33.3%	31.5%
「30分以上、1時間より少ない」	41.7%	26.9%
「30分より少ない」	8.3%	11.4%
「全くしない」	0%	4.6%

家庭学習については全国平均よりも短い傾向が見られます。「全くしない」という児童はいませんでした。1時間未満の児童が50%おり、6年生としてはやや少ないです。家庭学習の手引きをもとに、家庭学習の意味を保護者の方々や児童に伝える機会を設け、家庭学習が習慣化するように働きかけていきます。また、自分で計画を立てて勉強している児童の割合も全国平均を下回っていることから、自分で何をするかを考えて取り組む自主学習を勧め、計画を立てて家庭学習を行う習慣がつくように指導していきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学校からは、学年に応じた宿題を出しています。自主学習（自学）についても中・高学年で取り組みを増やしていきます。
- 始業前（8：05～8：10）の朝の読書の推奨をしたり、図書委員を中心に読書イベントをしたり、ボランティアによる読み聞かせをしたりするなど、読書の機会を増やすための工夫をしています。これからも継続していきます。

【ご家庭では】

- 1学期にお配りしている「家庭学習の手引き」を参考に、規則正しい生活と家庭学習の定着を図ってください。宿題が早く終わったら、読書をしたり、自主学習に取り組んだり等、学年に応じた家庭学習時間の目安時間は取り組む習慣をつけるとよいと思います。